

安心・安全 に暮らせる まちづくり

SAFETY

多様化する社会の中で、“地域”という共同体での暮らしが薄まりつつある中、近所付き合いや町内での交流の機会も減り、潜在的な犯罪発生の危険性が高まっており、日常的な防犯の取り組みが重要になっています。

一方、平成7年の阪神大震災や平成26年の広島豪雨土砂災害では、生命と財産に甚大な被害をもたらしましたが、救助活動では近所や地域の繋がりによる自主的な防災活動のお陰で、多くの人命が助かったことが分かっています。大規模災害では行政ができる防災支援には限界があり、地域での自主防災活動の重要性は以前にも増して高まっています。

このような状況において、早稲田学区では日頃の地域活動を通じてできた“絆”を大切にして、従来の活動を継続しながら、発展的な新たな取り組みも行い、安心・安全に暮らせるまちづくりを目指します。

平成23～27年度の活動実績

◆門灯点灯実施推進（平成23～27年度）

「減らそう犯罪、一家一点灯」のプレートを配布、掲示の依頼を行い、門灯点灯協力活動を進めました。

◆防犯意識の啓発（平成23～27年度）

子どもの見守り活動、パトロールの強化に取り組み、防犯ボランティアによるパトロールを実施しました。また、「パトロール中」の胸から下げる標示カードを、毎年小学1年生PTAに配布しました。

◆安全マップの見直しと配布（平成23～27年度）

安全マップに描かれている危険箇所などを平成24年に見直し、毎年、小学1年生PTAに安全マップを配布しました。

◆あいさつ運動（平成23～27年度）

女性会や更生保護女性会など活動する人の輪を広げ、中学生によるあいさつ運動も毎日実施しました。

◆子ども110番の家の見直し（平成23～27年度）

子ども110番の家を再確認し、情報を更新しました。

減らそう犯罪
一家一点灯



安全マップ



あいさつ運動



ガードボランティア



110番の家を確認

◆広島市総合防災訓練への参加（平成23年度）

避難訓練など実践的な訓練に参加することで、学区内の防災意識の啓発、防災技術の向上につながりました。

◆救命救急講習会の開催（平成23～27年度）

自主防災連絡協議会と早稲田社協ボランティアバンクの共催で、災害時などで負傷者等が発生した場合に備え、応急手当ての方法等を学びました。



救命救急講習

◆非常用持ち出し袋の展示（平成23～27年度）

災害発生時の備えを知っていただくため、非常用持ち出し袋に必要な準備品の紹介を公民館で実施しました。

このページの下に★



知ったク情報



◆広島市総合防災訓練センターでの自主防災研修（平成24・26年度）

災害時の行動力、対処方法を身につけるため、体験学習による研修を受講し、地震や火災などが発生した時の対応力を向上させました。

◆防災マップ作り（平成27年度）

早稲田学区で土砂災害が発生した時の準備、避難、初期対応の方法について、地図を活用して意見交換を行い、防災上の課題や利点について情報を共有しました。



持ち出しセット展示

◆社協だよりに「防災通信」の掲載（平成27年度）

防災活動における「自助」「共助」をテーマに、防災豆知識として身近な防災に関する情報発信を行いました。

知ったク情報 1

災害時非常持ち出し準備物



【寝具】

ビニールシート

【雨具】

雨カッパ：上・下

【調理用具】

ガスバーナー・コンロ・ガスカートリッジ・
フォーク・スプーン・ナイフ・
コップ・ライター

【食料品】

米・缶詰・レトルトカレー・
インスタントラーメン・カンパン・水

【現金など】

1000円紙幣・小銭（10円、100円）・
通帳（の写し）

【救急用具】

ロープ・懐中電灯・予備電池・携帯ラジオ・
薬（常用しているもの）・ばんそうこう・包帯

【洗面・衛生用品】

下着・タオル・歯磨きセット・手ぬぐい・
ポケットティッシュ・マスク・
トイレットペーパー

【その他】

運転免許証写し・健康保険証写し・
テレホンカード・軍手（もしくは皮手袋）・
ポリ袋・ラップ・ビニール袋・簡易トイレ・
マジック・ホイッスル・ボールペン・
ガムテープ

まちづくりにおける課題



①交通マナーの啓発

道路を通行する高齢者も増え、さらに車の通行量も増えてくると危険な面も増えています。早稲田学区のエリアには、30数箇所の「一旦停止」箇所が存在しますが、ほとんど守られていません。

また、通学路で子どもたちが通学している状況でも、減速をしない車も見られます。住民の交通マナーの向上が必要です。



②夜も安全なまちづくり

公務員宿舍の廃止に伴い、その近辺で夜間に道路が暗くなる範囲が増えています。公務員宿舍敷地内の道路側に面した外灯には、いくつか点灯していない設備が存在していることが確認されています。(平成28年1月時点)平成27年には、ひったくり未遂事件も発生しています。

また、夏になり木々が茂ってくると、外灯の光が道路まで届かなくなるため、枝葉の伐採が定期的に行われる必要があります。

③安全な道路環境の整備

早稲田学区は、坂の多い地区であり、道路の側溝よりも道路側に電柱が飛び出しているところも多く、障がい者・高齢者や小さな子どもにとって、歩きにくいところです。いろいろな方の意見を聞きながら、住民に優しい道路環境の整備をできることから進める必要があります。

④学区内に土砂災害危険箇所が多い

早稲田学区は、土砂災害の危険箇所として8つの土石流危険渓流、27箇所のがけ(急傾斜地)崩落危険箇所を抱えており、地区内で集中豪雨が発生すれば、平成26年8月に安佐南区・安佐北区で発生したような、大規模土砂災害が発生する恐れがあります。



砂防ダム

⑤指定避難場所への避難が困難な地区がある

指定避難場所となっている早稲田中学校、早稲田小学校は、学区内の最上端部に位置しており、避難場所に通じる主要な道路も限られているため、牛田早稲田2丁目や牛田東4丁目など、下側の地区からは避難が困難になる危険性があります。



避難訓練

⑥高齢化などにより迅速な避難行動が困難

早稲田学区も高齢化や核家族化などが進んでおり、地形が急峻で坂道が多いため、自主的な避難行動が困難な方がいます。



防災備蓄倉庫

まちづくりにおける長いスパンの目標

①交通マナーの啓発

毎年、東警察署から講師を招き、小学生の親子参加の交通マナー講習会を開催します。親子で学び、子どもたちの交通マナー意識が高まり、この子どもたちが大人になることで、将来的に地域全体の交通マナーを向上させることに取り組みます。



②夜も安全なまちづくり



公務員宿舍跡地の売却が終了するまでは、財務局と密な連携をとりながら、暗い道路の解消に努めます。

さらに、宿舍跡地が売却された後は、必要に応じて防犯灯の追加設置を区役所に要望するなど、夜の安全が確保できるように取り組みます。

③「住民同乗青パト・パトロール」の新規実施

運転手の他に2～3名の地域安全推進委員や地域住民の方にも同乗してもらう「住民同乗青パト・パトロール」を定期的の実施します。これにより、早稲田学区全域の現状を把握しながら、地域の方の防犯意識が向上するように努めます。

※「青パト」とは、青色回転灯を装備したパトロール車の通称です。



④安全な道路環境の整備

交通量を分散させて安全性を高めるため、牛田地区につながる道路をもう1ルート増やし、災害発生時に大型の支援車両も通行できるループ状道路の整備を要望します。

また、自転車を押して歩ける歩道の確保や、子どもたちが安全にボール遊びができる広場の確保など、段階的な整備を実施してもらえるよう区役所へ要望します。



⑤地域で防災に備える体制の整備、知識・技術の習得

災害に対する情報収集、避難行動、避難生活などに備える体制を学区単位で整備するとともに、避難訓練や研修会を通じて防災に対する知識・技術を習得することで、災害が発生した場合の初期対応などが迅速、円滑に行えるよう備えます。

⑥自らを守る取り組みの向上

“防災は自動(自ら守る)から”を合言葉に、広報や研修により、各戸での避難ルールの作成、物資の備蓄、情報収集方法の確認などができるように努めます。

⑦高齢化、人口減少に備えた取り組みの推進

高齢化や人口減少により個人的な避難行動や避難生活が困難になっていくことが予想されるため、支援を必要とする方の把握を行い、地域が互いに支え合える取り組みを推進、継続します。



安心・安全に暮らせるまちづくり		※実施年度	---第2次プランからの継続活動 ---第3次プランでの新規活動					ネットワーク
活動内容		プラン実施	28	29	30	31	32	
1) 防犯活動の充実								
1	夜も明るいまちづくり ・公務員宿舍の廃止に伴う対策として、財務局と密な連携を取り、外灯の点灯、枝葉の伐採を行う	社協事務局 各町内会						
2	防犯意識の啓発 ・見守り活動中、散歩する人などに声かけや、パトロールのボランティアの募集を通じて、防犯への意識付けや啓発を図る	防犯組合 P T A 小 P T A 各町内会						ねっと とバト
3	あいさつ運動、パトロールの継続実施 ・防犯組合やP T Aなどによるあいさつ運動、パトロールを引き続き実施する	防犯組合 P T A 小 P T A 青少年 各町内会 更女						
NEW 4	住民同乗青バト・パトロール新規実施 ・地域住民にも同乗してもらう青バト・パトロールを新規に実施し、住民の防犯意識を高める	防犯組合 P T A 小 P T A 青少年 各町内会 更女						
5	一家一点灯運動の再周知 ・まちを明るくして犯罪の発生しにくい環境を作るため、「一家一点灯運動」を再周知する	防犯組合 P T A 小 P T A 各町内会						
6	子ども110番の家の再確認 ・高齢化が進む110番の家の方に引き続き110番の家を継続できるか確認するとともに、新規の110番の家の登録も行う	青少年 防犯組合 各町内会						ねっと 子どもバト
2) 安全マップの作成・更新								
1	新・安全マップの作成 ・公務員宿舍跡地など、安全状況の変化に伴い、安全マップを見直し、夜間の危険なエリアも追加する	防犯組合 P T A 小 P T A 各町内会						ねっと わが町バト
3) 交通マナーの啓発								
NEW 1	交通マナー教室の新規実施 ・東警察から講師を招き、子どもと大人が一緒に学ぶ交通マナー教室を実施する。参加者を毎年交代させながら、継続的に行う	防犯組合 P T A 小 P T A 各町内会						ねっと 子どもバト
4) 交通環境の整備								
NEW 1	安全で災害に強い道路環境の整備 ・隣がいの意見も聞きながら、住民に優しい道路環境の整備をできることから進める ・牛田地区からのループ道路を整備し、交通量の分散と災害発生時の大型車両等の支援ルートとして使用できるように整備を要望する	社協事務局 各町内会 防犯組合 自主防						ねっと わが町バト 防災
5) ささえ合いマップ作り								
1	避難行動要支援者の把握・確認 ・避難行動要支援者（高齢者や障がい者の方などで災害時の避難時に支援が必要な方々）の情報の把握、防災計画への取り込みを図る	各町内会 自主防 民児協 若連						防災 ネット
2	ささえ合いマップ作り ・避難行動要支援者への支援が円滑に行えるよう各町内会で「ささえ合いマップ」を作成する	自主防 各町内会 民児協						

安心・安全に暮らせるまちづくり		※実施年度	---第2次プランからの継続活動 ---第3次プランでの新規活動					ネットワーク
活動内容		プラン実施	28	29	30	31	32	
6) 救命救急講習会などの防災研修実施								
1	救命救急講習会の実施 ・災害発生時の負傷者に対する手当を迅速に行えるよう講習会を開催する	自主防 社協ボランティア部						防災 ネット
2	非常用持ち出し袋の展示 ・災害発生時に役立つ非常用持ち出し袋の中身について展示を行う	自主防 早稲田公民館						
3	防災研修会の開催 ・各自、地域での防災に関する知識、技術を習得するための研修会を開催する	自主防 各町内会						
4	防災対策先例地への視察 ・防災に関する取り組みが進む先例地の視察を行い、早稲田学区での防災活動の向上を図る	自主防						
7) 避難行動計画の作成								
NEW 1	町内会単位での避難行動計画の作成 ・避難行動計画を作成し、避難ルールを明確にするとともに、生活避難場所へ避難が困難な地区の一時避難場所確保などを行う	自主防 各町内会						防災
8) 防災避難訓練の実施								
NEW 1	避難所開設訓練 ・生活避難場所（中学校など）での避難所開設訓練を行い、迅速かつ円滑な避難所の運営が行えるように備える	自主防 女性会 各町内会 早稲田中						防災 ネット
2	総合防災避難訓練の実施（5年に1回程度） ・学区全体で地震などに備えた総合防災避難訓練を行う	自主防 各町内会 女性会 早稲田中						
9) 防災活動の情報発信								
1	社協だよりなどによる情報発信 ・社協だよりやホームページにより、防災知識や注意喚起などの情報発信を行う	自主防 社協広報部						防災 ネット 広報
NEW 2	「わせた防災パンフレット」の作成 ・早稲田学区での防災に関する知識、情報を各戸で整理できるパンフレットを作成する	自主防 社協広報部 各町内会						

知ったク情報 2 災害時に使用できる避難場所

大規模災害時に使用できる避難場所には、生活避難場所や広域避難場所があり、災害の状況などによって以下のように使い分けられています。



生活避難場所
早稲田中学校
早稲田小学校

災害が発生する恐れがある時や、災害の発生直後から緊急的に使用できる避難場所です。
災害の危険性が去った後は、自宅の被災状況などにより被災者の宿泊場所などとして使用します。早稲田学区では、早稲田中学校が最初の避難場所として開設されます。



早稲田中学校校門前



広域避難場所
広島女学院大学
グラウンド

生活避難場所などが周りの延焼などにより危険になった場合に、最終的に使用する避難場所です。

その他にも、災害の状況に応じて早稲田集会所、早稲田公民館などが避難場所として使用されます。